



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：石油・天然ガス関係（11月10～13日）

1. イランの原油生産量（13日付ジョムフーリーイェ・エスラーミー紙）

OPECの月次報告によれば、イランの原油生産量は、日量262万6,000バレル〔イラン暦1391年メフル月（2012年9月22日～10月21日）〕であった。

2. IMF中東・中央アジア担当局長の発言（13日付ケイハーン・インターナショナル紙）

アフマド IMF中東・中央アジア担当局長は、AFPのインタビューに答え、イラン経済は極めて多様化しており、石油がGDPに占める率は、他の産油国に比べあまり大きくないと答えた。

3. トルコによるイラン産ガス輸入（10日付テヘラン・タイムズ紙）

トルコのエネルギー省のヤルディズ大臣は「EU制裁は既存契約を対象としておらず、トルコはイランからのガス供給を減らす計画を有していない」と述べた。1996年、イランとトルコは年間100億立方メートルのガスをイランから供給する契約を締結している。トルコは2011年には397億立方メートルのガスを輸入しており、上位はロシア、イラン、アゼルバイジャンとなる。

4. 韓国によるイラン産LPG輸入（13日付ドンヤーイェ・エグテサード紙）

EU（27カ国）がイラン産天然ガスの輸入を停止しているが、韓国のLPG（液化石油ガス）輸入は昨年比で2倍となっており、イランは韓国企業3社に対して130万バレルのLPGを供給している。ノルウェーのスタット・オイル社も、イランのサウス・パールスからのLPG供給を受けている。

5. 仏トタル社のサウス・パールス探鉱の遅延（12日付イラン・ニュース紙）

サウス・パールス・ガス田の探鉱を10年にわたり遅延させているトタル（仏国の総合石油エネルギー企業）を、イランは訴える用意をしている。